



2007（平成19）年度第6回幹事会・第5回常任幹事会

来年度事業計画案のテーマは「10周年を迎え、次のステージへ」

2008（平成20）年度総会 6月13日（金）18時～19時 からすま京都H

3月28日（金）京都市役所寺町第1会議室において、2007（平成19）年度第6回幹事会・第5回常任幹事会合同会議が開催されました。今回は主に、京都市地球温暖化対策政策提言プロジェクトの中間報告（詳細はp.2記事）とフォーラムの新年度の事業計画案についての活発な意見交換が行われました。

1998（平成10）年11月23日に設立されたフォーラムにとって、2008（平成20）年度は10周年を迎える節目の年度になります。今の段階では、京都市が目標としている「2010年に1990年比で温室効果ガス排出量を－10％に」の達成はたいへん厳しい状況にあります。フォーラムでは本年度の総会において、2007・2008・2009年度の複数年にまたがる活動方針を定め、持続可能な京都の実現に向けて事業を推進していきます。2008（平成20）年度の事業計画案は、その活動方針の具体化の2年目にあたるもので、下記の内容とすることになりました。

●2008（平成20）年度事業計画（案）

「10周年を迎え、次のステージへ」

特徴は次の2点です。

- ①複数年にまたがる活動方針の具体化として、取組内容の継続性と発展性を重視。
- ②2005（平成17）年度から進めてきたフォーラム改革の成果となる、事業推進力を高める新しい組織体制（幹事会・WG・事務局をそれぞれ強化）のもとで各事業を実施。

具体的な事業内容の案は以下の通りです。

〈1〉京のアジェンダ21推進に向けた長期的戦略の検討
兼 10周年記念シンポジウム

中長期的な京都の未来像への戦略的な検討については、フォーラム設立10周年の節目の事業を兼ねて、シンポジウムを軸に実施します。内容については、フォーラムの内藤正明代表とフォーラムの浅岡美恵幹事（案）をメインとして、2010年－10％の達成が厳しい京都の現状を踏まえつつ、しかし進むべき未来像を提示し実現に向けた取組推進の意思を共有するといった基調対談としてはどうかとの意見が出されました。

〈2〉新しい組織体制のもとでのWGの運営

2007（平成19）年度の京都市地球温暖化対策政策提言プロジェクトの成果を受けて、「企業活動WG」「エコツーリズムWG」「交通WG」「えこまつりWG」「自然エネルギーWG」の5つのWGの分野毎に提言内容の深化と具体化を目指す取組を推進します。

1) WG活動

活動の担い手となる新たな参加者を迎えつつ、政策の実現に向けた詳細検討やWGとしての活動の方向性を議論する、会議や勉強会などのWG活動を継続的にを行います。各WGの運営には事務局が責任を持ってあたるほか、幹事も担当するWGを持ち、WG活動とのつながりを深めます。

2) 調査研究

提案を事業や政策の実現まで育て上げる際に必要な、実証的な調査や詳細な検討分析などを行えるよう、WGが調査研究活動を実施するための新たな予算枠を確保します。

〈3〉プロジェクトの実施

複数年にまたがる活動方針の考え方とおり、前年度の取組を引き継ぎ発展させるかたちで、下記のプロジェクトを実施します。

1) 脱温暖化行動キャンペーン

京都の各主体が連携して脱温暖化社会の実現を目指す「脱温暖化行動キャンペーン京都ネットワーク」に引き続き参加し、取組を継続発展させます。

2) 家庭の省エネルギー対策プロジェクト

フォーラムでは2006・2007年度と、「脱温暖化行動キャンペーン」における省エネ相談所の開設を中心に取り組んできた、家庭の省エネ活動を推進する働きかけを、今後さらに効果的に、継続性を持って推進する体制づくりの検討と試行を各関係主体と連携しながら行います。

3) 京都環境コミュニティ（KESC）活動プロジェクト

一昨年度・昨年度と京エコロジーセンターの地球温暖化防止モデル事業に採択され取組を進展させてきましたが、過去2年間の取組成果と課題を踏まえて活動の方向性の確認や実施体制の再検討を行い、新たなモデルを試行して環境コミュニティ活動をステップアップさせていきます。

今後、幹事会の議論を踏まえ、事務局が事業計画案を練り上げ、次回の幹事会（5月下旬を予定）で、総会議案として機関決定します。

●2008（平成20）年度フォーラム総会

新年度のフォーラム総会は、6月13日（金）18時～19時、「からすま京都ホテル」（烏丸通四条下ル）で開催することになりました。会員の皆様への詳しいご案内については、後日、議案書などとあわせて送付させていただきます。ご参加をよろしくお願いいたします。

京都市地球温暖化対策政策提言プロジェクトチーム 幹事会で中間報告なされる CO2排出削減量を社会経済に組み入れる政策案を提案

3月28日の第6回幹事会・第5回常任幹事会合同会議（p.1記事）において、京都市地球温暖化対策政策提言プロジェクトチーム（リーダー 田浦健朗さん）から、検討中の政策提言案について中間報告がなされ、意見交換が行われました。

中間報告の内容は、京都市における部門別の温室効果ガス排出の動向の分析や現状の地球温暖化対策の施策のレビューをはじめ専門的な内容も多く含まれていますが、以下では中間報告の中で「今後京都市において、2020年までに温室効果ガス1990年比30%削減を実現するための温暖化対策として重点的に実施すべき」取組として挙げている京都市で導入していくべき政策案から代表的なものをご紹介します。各項目にはプロジェクトチーム会議や幹事会での意見交換で出された、検討を要する事項も示していますが、指摘されている内容も踏まえながら、最終報告に向けて、プロジェクトチームで検討が進められています。

●具体的対策からいくつかご紹介

（1）いわゆる「地域炭素税」などの化石燃料消費抑制策の導入

電気や都市ガスの使用にともなう化石燃料消費を抑制する対策として、電気および都市ガスの料金に使用量に応じ、金額を上乗せするものです。この対策は、ガソリンや軽油なども対象に加えた「炭素税」として提案されることが一般的ですが、国レベルでの炭素税の導入に先行して、京都市内において実施すべき対策として提案されました。

導入に際しての制度設計としては、上乗せの料金収入をいくらに設定するか、またその収入の使い道をどうするのかなどの検討が必要です。化石燃料の消費抑制のためには上乗せ料金は高額なものとするのが考えられますが、一方で高額な上乗せ料金は電気やガスの使用量の多い事業所が京都市外へ流出する動きを引き起こしたり、所得の多くない家庭にとって重い負担となるため、減免措置を組み入れた具体的な制度内容についてさらに検討する必要があります。収入の使い道については、専ら地球温暖化対策に使用するのが望ましいとした上で、具体的にどの対策に充当するか検討も必要になります。

（2）大規模事業者に対する排出量取引制度の導入

現在、京都市では、地球温暖化対策条例に基づき、大規模に温室効果ガスを排出する事業者等の「特定事業者」に温室効果ガスの排出量削減のための措置や削減目標等を記載した「特定事業者排出量削減計画書」と、その実績をまとめた「特定事業者排出量削減報告書」の作成・提出を義務付けています。

これら特定事業者の排出削減の取組を一層進める制度として、排出量取引制度の導入を提案しています。排出量の取引とは、大幅に排出量を削減することができた事業者が、その排出削減量の一部を（主に金銭と引換で）他の事業者に譲渡することができる制度です。

導入に際しての制度設計としては、排出削減量を買取る側になる事業者への動機付けが鍵になります。

制度の一例としては「キャップ・アンド・トレード」方式といって、温室効果ガス排出量の上限を設定（キャップ）、排出量が上限値を超えてしまう事業所に他の事業所から排出削減量を買取り取らせよう（トレード）というものがありますが、この場合は、各事業者に強制力をもって義務付ける排出量の上限値をどう定めるかが問題になります。仮に市条例で定める削減計画書を排出量上限設定の根拠にしてしまうと、各事業所に対して“チャレンジする”目標ではなく“確実に達成できそうな”目標を計画書に組み入れる行動を惹き起こ

し、かえって排出量削減が進まなくなる事態も出てくること懸念されます。

とはいえ、排出削減量に取引できる性質を持たせることは、自社だけで取り組む排出削減から、自社でできない分の排出削減を他社に代わりにしてもらうことでトータルとしての排出削減に発展させる効果があり、上手く機能すれば地球温暖化対策としてたいへん有効であるため、さらに検討を深めていきます。

（3）マイカー通勤の削減に向けた取組

京都市内の職場にマイカーで通勤する人の数は1日16万人に及びます。これらマイカー通勤は、職場単位で状況を把握し、計画的に公共交通機関（電車・バス）に切り替えてもらうことで大幅に減らせる可能性があります。そこで、マイカー通勤の多い事業所を最初の対象にして「トラベルプラン」と呼ばれる計画を策定し、通勤交通手段の切り替えによるCO2の排出削減を目指す対策を提案しています。

本提案については、「特定事業者排出量削減計画書」の中に通勤交通手段の転換による排出削減も組み入れることで、事業所の主体的な取組としてこれが実施されることが期待できます。

具体的な実施にあたっては、マイカー通勤の多い事業所がどこかを把握し、通勤交通手段を変更するために、通勤に便利に使えるバスサービスなどがあるかどうかの確認が必要になります。一般に事業者は交通事故の懸念などからマイカー通勤を推奨してはいないにもかかわらず、現にマイカー通勤が多い事業所は、公共交通機関での通勤が便利でないことが予想されます。その場合、事業者が「トラベルプラン」の中で、まとまった公共交通通勤者を生み出すことを明示して公共交通事業者例えばバス路線の新設などを行ってもらうことが必要です。

プロジェクトチームでは、このあたりのこともさらに整理して提案を取りまとめていきます。

●その他の提案もあります

ただいま最終報告に向け活動中です

以上、プロジェクトチームの中間報告に掲げられている京都市で導入していくべき政策から3つの提案を選んでご紹介しました。中間報告では、重点的取組としてこの3つを含め7つの提案があったほか、フォーラムがこれまでの活動の延長・発展として実施できるプロジェクトの提案も8項目が示されています。

プロジェクトチームでは、各対策を相互に関連を持たせて組み合わせて実施することで大きな効果を上げることを念頭に置き、提案内容を練り上げています。

現在、チームは最終報告の取りまとめに向けて活動中です。プロジェクトチームの成果は次回の幹事会で報告されるほか、報告書として公表する予定です。

●京都市への提案も行います

フォーラムが主体となった事業の実施も目指します

田浦健朗プロジェクトリーダーは、京都市が環境審議会の下に設置している「地球温暖化対策評価検討委員会」のフォーラムからの委員でもあります。今後、同委員会で、本プロジェクトチームの成果を盛り込んだ地球温暖化対策の政策提案を行いその実現を働きかけます。

また、フォーラムが主体となって、提案に基づいた事業の実施も目指していきます。今後も引き続きご注目ください。



3月28日 会員交流会「サロンdeエコ」を開催 K E S Cをメインの話題に今回も盛況

●「バスと電車でecoグルメ！」参加店で開催

3月28日（金）18時よ

り、2007（平成19）年度2回目の会員交流会「サロンdeエコ」を開催しました。会場は、脱温暖化行動キャンペーンの「バスと電車でecoグルメ！」の参加店でもある「ミュンヘン」（河原町通四条上ル）でした。今回は、K E S・環境マネジメントシステム・スタンダードを取得している事業者を中心に、フォーラム会員やフォーラムの取組に参加している主体から40名以上の参加があり、親睦を深めました。

●K E S Cの取組成果を披露

交流会の中で、京都環境コミュニティ事業（以下K E S C）の活動報告を、プロジェクトリーダーの長屋博久さんにいただきました。K E S Cでは、京都市内の各地域で、地元の事業者・学校・住民が地域活動として環境をテーマとした活動を協働して行う仕組みをつくることを目指して活動しています。

交流会では、今年度活動した4つのチーム（自然エネルギー環境学習チーム、交通環境学習チーム、市民共同おひさま発電所づくりチーム、水源の森づくりチーム）の取組内容や、実際に参加された事業者や学校、児童たちの感想が紹介されました。「K E S Cは参加事業者や学校からは高い評価をいただいている一方、今後の課題としては、参加主体や実施地域を増やしていくにあたっての運営体制の整備や、各地域の活動を牽引するチームリーダーの養成、地域の住民により積極的な参加を促すための仕掛けづくり等が挙げられる」とのことでした。

続いて、K E S Cの自然エネルギー環境学習チームに発足時から2年間参加してきた生田産機工業株式会社の渡辺千裕さんから感想が述べられました。「K E S Cに参加して、とても良い経験になった。児童に環境問題や自社の取組の話をしていると、社内でももっと環境問題への取組を頑張ろうという気になる。K E S Cにはあらゆる業種の事業者が参加できるので、私からも多くの事業者に参加を勧めたい」とのことです。

フォーラム常任幹事でNPO法人K E S環境機構の津村昭夫専務理事からも、「これからは環境問題について地域と一体となって取り組んでいくことがますます大切になる

と考えている。K E Sを取得した事業者の皆さんは、ぜひK E S Cに参加してほしい」と呼びかけがありました。交流会の参加者の皆さんは、熱心に活動報告に聴き入っていました。

●交流会は今回も盛況

その後の懇親会では、参加者がお互いに活動内容や日頃感じている思いを語り合う中、「今後もK E Sや、フォーラムの活動に積極的に参加していきたい」といった声も出され、今回も熱気あふれる交流会となりました。

なお、2008（平成20）年度も会員交流会「サロンdeエコ」を開催する予定です。開催日時等が決まりましたら会員の皆様にご案内を差し上げますので、ぜひご参加ください。



【写真】交流会のようす

事務局動静 3月 ～事務局スタッフの動きを報告します～



7日（金）地球環境問題連続セミナー
11日（月）脱温暖化行動キャンペーン京都ネットワーク会議
13日（木）エコまつりWG運営会議
14日（金）第24回嵐山交通対策研究会
15日（土）東山3K大賞表彰式
16日（日）エコ下宿見学会

2日（日）妙林苑保育園おひさま発電所見学会
3日（月）自然エネルギーWG運営会議
5日（水）K E S Cおひさまチーム会議
7日（金）京都三条ラジオカフェ番組出演

17日（月）京都府地球温暖化防止活動推進センター運営委員会
18日（火）歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会第7回幹事会
20日（木）家庭の省エネ相談所（ビックカメラJ R京都駅店）
24日（月）第2回政策提言プロジェクトチーム会議
24日（月）企画会議
24日（月）京エコロジーセンターK E S環境委員会
25日（火）歩いて楽しいまちづくりの会
26日（水）京都G P N幹事会
28日（金）第6回幹事会・第5回常任幹事会合同会議
28日（金）会員交流会「サロンdeエコ」
30日（日）環境・まちづくりフォーラム i n 京都



★新連載★ 京の交通交流ひろば出張所

第1回 京都だけ！ 他都市にはない市営交通カード乗車券などの一般のお店での販売

こんにちは、事務局コーディネーターの長谷川吉典です。今月から新連載「京の交通交流ひろば出張所」をお届けします。

「京の交通交流ひろば」は、環境に優しい交通体系の創出を目指して活動している交通WGのウェブサイトで、環境を主な視点にしながら京都の交通に関する様々な情報を紹介しています。本連載では、その中から、広くフォーラム会員の皆様に興味深く見ていただけるようなトピックを毎月ご紹介して行きたいと思います。

●マイカーでなく公共交通機関を使いましょう

2005年度から2006年度にかけて、市バスも地下鉄も利用客数が増えました。経費削減の努力もあって、市バスは4年連続で単年度黒字の決算になり、地下鉄の経営も改善されつつあります。

とくに市バスについては、昔のイメージで乗ろうと思わない方もいらっしゃると思いますが、最近では定時運行も相当な割合で守られています。また、地下鉄の路線も長くなりました。さらに、便利でお得な乗車券も身近なお店で買えますので、地球温暖化防止の面からもマイカーをできるだけ使わず、公共交通機関を使っただけだと思います。

●便利でお得な市営交通のカード乗車券

関西で電車やバスを利用する人にとって「スルッとKANSAI」カード乗車券はすっかり馴染みのものになりました。また、最近では「PiTaPa」などのICカード乗車券をお使いになっている方も多いと思います。

スルッとKANSAIカードには運賃の割引はないので、京都の市バス・地下鉄を利用する方は、京都市交通局の「トラフィカ京カード」をお求めになることが多いと思います。トラフィカ京カードでは運賃が1割お得になるほか、市バス→市バス、市バス→地下鉄の乗継割引も適用されます。

また、1日に3回以上市バスや地下鉄に乗車するときには「市バス専用一日乗車券カード」と「市営地下鉄1dayフリーチケット」が更にお得です。

●皆さんはカード乗車券をどこで買いますか？

これらのお得なカード乗車券は、どこで買い求めますか？ 他都市の人にとっては、カード乗車券などは基本的に駅かバスの車内で買うものです。京都でも地下鉄の駅や市バス車内で買うことができます。

加えて、京都市内では、沢山の一般のお店などでカード乗車券を販売しています。これは、他の都市ではほとんど見られないことですが、市バスを利用する際にはとても便利です。

●タバコ店や郵便局やコンビニエンスストアでカード乗車券を販売

市電が走っていた時代から、市内のタバコ店を中心に回数券が販売されていました。今では、カード乗車券が中心になっていますが、緑色の「回数券」の看板や貼紙が依然として目印に使われています。タバコ店から商売替えをしたお店がそのまま取り扱いを続けているので、今では、喫茶店・書店・クリーニング店・薬局・菓子店・OA機器販売店など一見してかなり意外なお店がカード乗車券を販売していたりもします。

また、市内の全ての郵便局で市営交通のカード乗車券を販売しています。最近ではあまりこのことをPRしていない様子なので、ご存知でない方が多いかも知れません。

さらに、多くのコンビニエンスストアのレジでもカード乗車券を買い求めることができます。写真のようにレジ台に掲示がある店舗も無い店舗もありますが、掲示が無くともレジで訊ねてみるとカード乗車券を置いているコンビニエンスストアが多いです。

●子ども一日乗車券も買えます

大人用500円の市バス専用一日乗車券カードは1日平均約1万枚が売れる人気のカード乗車券ですが、市バスの車内では大人用のみを販売していて、250円の子供用のカードは、地下鉄の駅や、お店に行くと買うことができます。子供用の一日乗車券を使っているところはあまり見かけないので、お店で買えることをもっとPRするとういと思います。



★ウェブサイトは <http://traffic.ifdef.jp/> です。

事務局短信 風邪を引いた影響で、最近肩こりが激しいです。マッサージや整体に行ってみようかと思ったものの、店の数・種類の多さから、行き先を選べずにいます。お薦めの店、人がいる方はぜひ教えてください！（竹村光世）／花粉症の季節になりました。花粉症を解決するためにも、奥山の造り過ぎたスギの人工林を伐採して、ブナ、ミズナラ中心の自然林に近い森に戻していきましょう。（小山直美）／私は花粉症なので今の季節は少々つらいです。さて、今月からp.4の紙面をもらって新連載をさせていただくことにしました。主に地球温暖化対策の視点から、京都市内の公共交通機関のサービスについて、意外と広く知られていない良いところなどを紹介したいと考えています。しばらくの間おつきあいください。（長谷川吉典）

※まんが「藤森通信」は、今月は作者都合により休載させていただきます。